

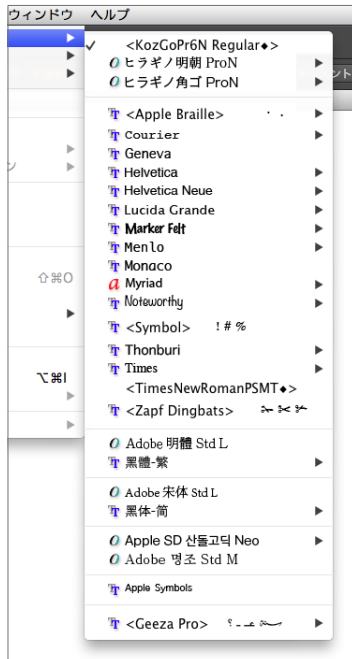
フォント管理でフォントメニューを すっきりさせる (Mac/FontExplorer X Pro)

パレートの法則より多くインストールされているフォントの中で使うものは一握りです。デフォルトの状態では、OSやAdobe CS/CCなどでインストールされるフォントがすべて表示されるため、フォントメニューには使用しないフォントがたくさん表示されます。

デフォルト



最小限の状態



「システム/ライブラリ/Fonts/」や「ライブラリ/fonts/」内のフォントを最小限にした状態でのIllustrator CS6のフォントメニュー

フォント管理活用ガイド

フォント管理については、Extensis/ソフトウェア・トゥーが配布している『Mac OS X 環境のフォント管理活用ガイド』(PDF)が参考になります。



<http://www.swtoo.com/product/extensis/img/pdf/FontBPv6j.pdf>

IllustratorやMac OSを再起動せずに、フォントメニューに表示するフォントをコントロールできるように環境を整備する方法を紹介します。メニューに表示されるフォントの数を少なくすることで、スピーディにフォントを選択できるだけでなく、OSやアプリケーションの起動時間が短くなるという効果も得られます。

フォントのインストール場所

「インストールされたフォントを整理し、最小限のフォントのみ残す」前に、フォントがどこにインストールされるのかを確認しておきましょう。Mac OS Xには、いろいろな場所にフォントがインストールされています。

インストール場所	挙動
システム/ライブラリ/Fonts/	基本的にノータッチ
ライブラリ/Fonts/	すべてのユーザーが使えるフォント Adobe CSのフォントはここにインストールされる
ユーザ/<user>/ライブラリ/Fonts/	そのユーザーだけが使える
ユーザ/<user>/ライブラリ/Application Support/Adobe/Fonts/	アドビのアプリだけが使える (現在、アドビ非推奨)
アプリケーション/Adobe InDesign CC/Fonts/	InDesignのみが使用できる
アプリケーション/Adobe Illustrator CC/Fonts/	Illustratorのみが使用できる デフォルトでは存在しないので、自分で作成する

フォント管理ツール

フォント管理ツールを利用するとIllustratorを終了することなく、アクティベート(使用可能な状態)、ディアクティベート(使えない状態)を切り替えることができます。

フォント管理ツールには、Suitcase Fusion、Fontcaseなどがありますが、ここでは、Windows版もあるFontExplorer X Proを使ったフォント管理の方法を紹介します。

フォント管理の流れ

FontExplorer X Proを使ったフォント管理の方法を紹介します。

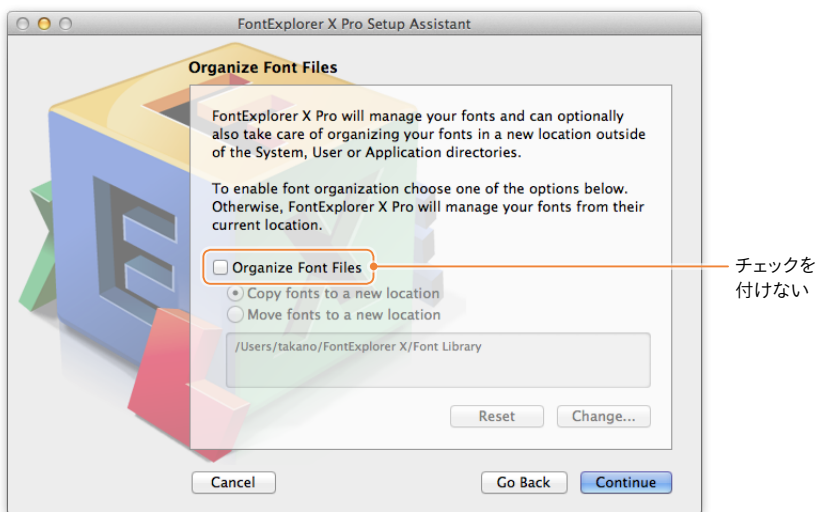
1. 「ライブラリ/Fonts」のフォントをディアクティベートする
2. ディアクティベートしたフォントからよく使うものをセットとして登録し、アクティベートする
3. その他のフォント(別途、購入したフォントなど)を、FontExplorer X Proに登録し、必要に応じてアクティベートする



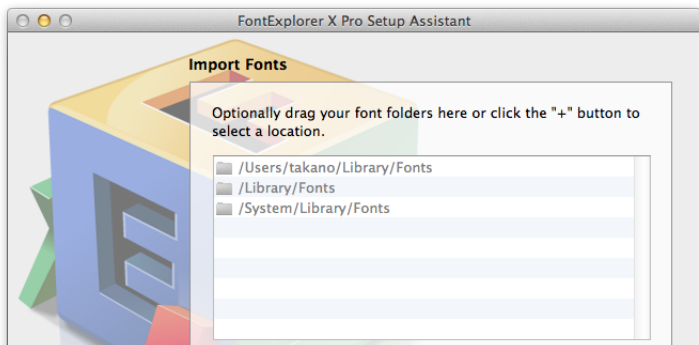
FontExplorer X Pro 初期設定の勘どころ

FontExplorer X Proをインストール後に開く、Setup Assistantでの設定を解説します。

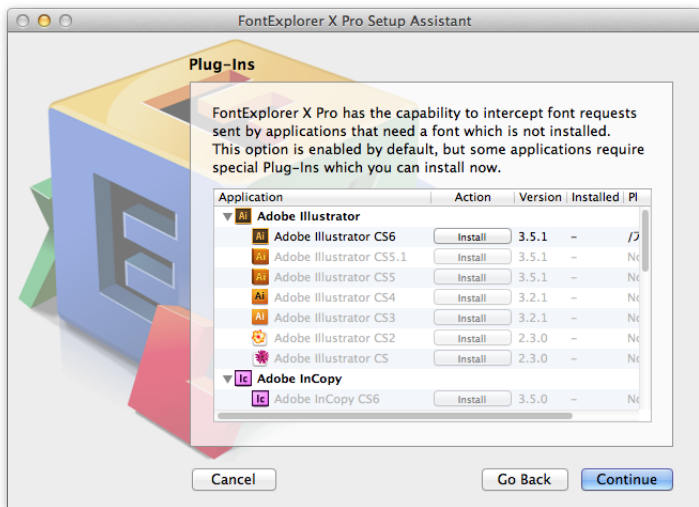
1. FontExplorer X Proをインストール後、最初に起動すると、[FontExplorer X Pro Setup Assistant]が開くので、[Continue] ボタンをクリックする
2. [License Agreement] に切り替わったら、[I hereby agree to the license agreement] オプションにチェックを付け、[Continue] ボタンをクリックする
3. [Organize Font Files] に切り替わる。[Organize Font Files] オプションにはチェックを付けずに、[Continue] ボタンをクリックする (チェックを付けると、フォントのアクティベート/ディアクティベート時に、フォントファイルを移動するようになる)



4. [Import Fonts] に切り替わるので、[Import] ボタンをクリックする (FontExplorer X Pro に取り込むフォントを指定)



5. [Plug-Ins]に切り替わる。ここでは何もせずに[Continue]ボタンをクリックする



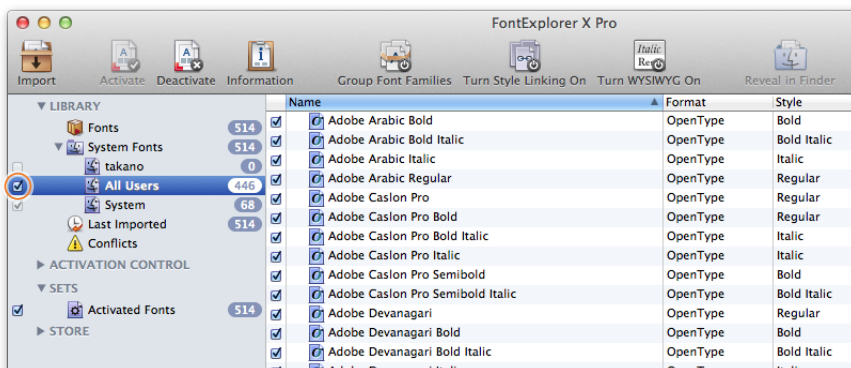
FontExplorer X Proには、Illustrator、InDesignのプラグインをインストールすることで、ドキュメント内のフォントを自動でアクティベートする機能がありますが、日本語環境では安定していません。日本語環境では安定していないため、自動アクティベート機能は使用しない方がよいでしょう。

6. [Updates]に切り替わる。[Check for update at startup]オプションにチェックを付けて、[Continue]ボタンをクリックする
7. [Conclusion]画面の[Finish]ボタンをクリックして、初期設定は完了

フォント環境を最小化する

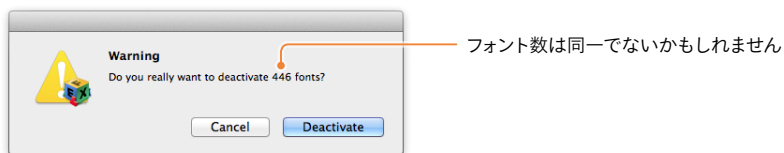
「ライブラリ/Fonts」のフォントをディアクティベートします。

1. FontExplorer X Proを起動し、[LIBRARY]の[System Fonts]の▶をクリックする
2. [All Users]を選択し、左側にあるチェックボックスをクリックしてOFFにする

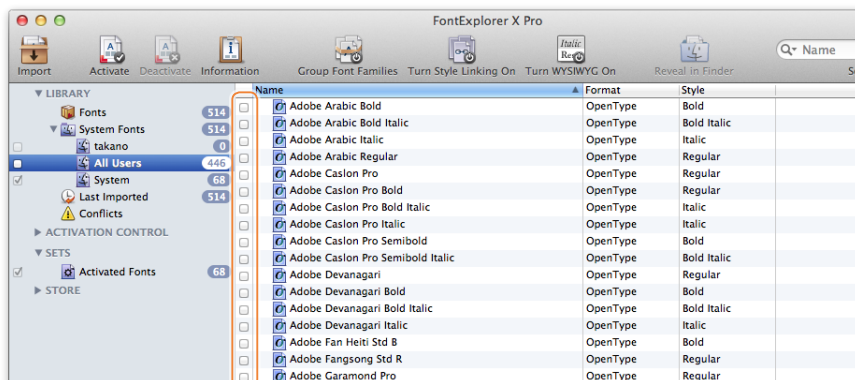


[All Users]には「ライブラリ/Fonts」フォルダー内のフォントが表示されます。

3. [Warning: Do you really want to deactivate 446 fonts?] というアラートが表示されるので、[Deactivate] ボタンをクリックする



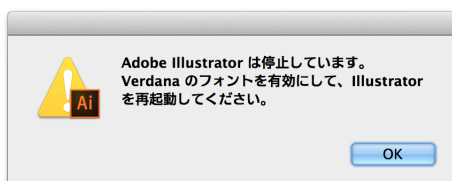
4. [All Users] 内のすべてのフォントのチェックボックスがOFFになる



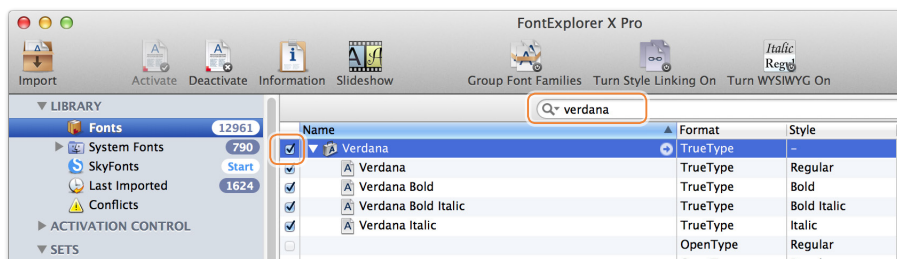
Verdana フォントをアクティベートする

[All Users] 内のすべてのフォントのチェックボックスをOFFにすると、「Verdana.ttf」フォントがディアクティベートされることで、次のような問題が生じます。

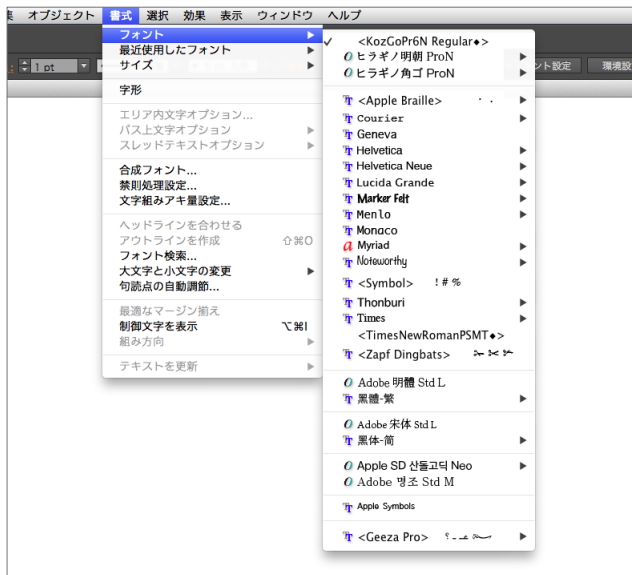
- **Illustrator CS6** : 起動時にアラートが表示されたり、[アピアランス] パネルなどがきちんと表示されない
- **Illustrator CC** : 起動しない



FontExplorer X Pro ウィンドウ右上の検索フィールドに「Verdana」と入力し、表示されたリストのチェックをONにします。



Illustratorを起動し、フォントメニューを開きます。「システム/ライブラリ/Fonts」のみがアクティブになっているため、フォントメニューはとても短くなっています。

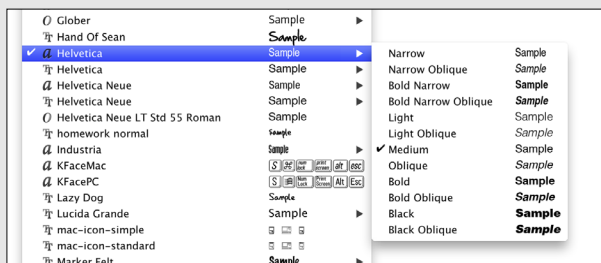


Type 1 フォントの扱い

PostScript Type 1版とTrueType版のHelveticaは、形状が異なるためリフローの原因になります。

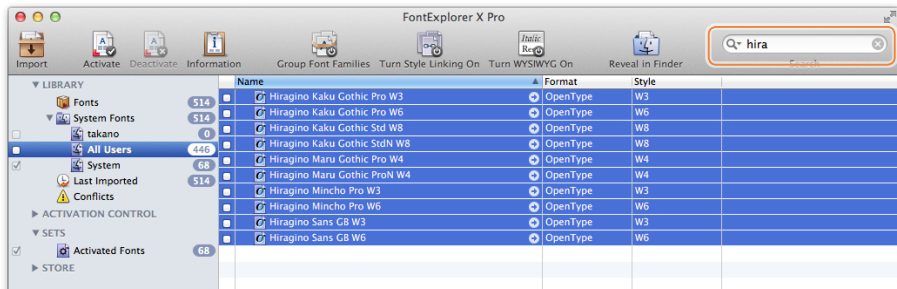
Mac OS Xは「/System/Library/Fonts/」内にある「Helvetica.dfont」をシステムフォントとして使っています（「dfont」はTrueTypeフォント）。Type 1形式のHelveticaをインストールしようとすると、フォント重複のエラーが出てしまいます（Mac OS X付属のFont Bookでも、FontExplorer X Proでも、扱うことができません）。

Type 1形式のフォントを使えるようにするには、Illustratorアプリケーションと同階層の「Fonts」フォルダーに入れるのがシンプルな方法です。Type1、TrueTypeとも認識します。

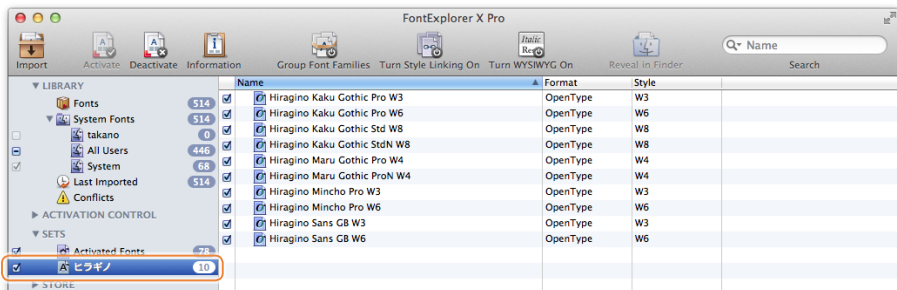


フォントをセットとして登録し、アクティベートする

FontExplorer X Pro ウィンドウ右上の検索フィールドに「hira」と入力すると、ヒラギノフォントのみが表示されます。

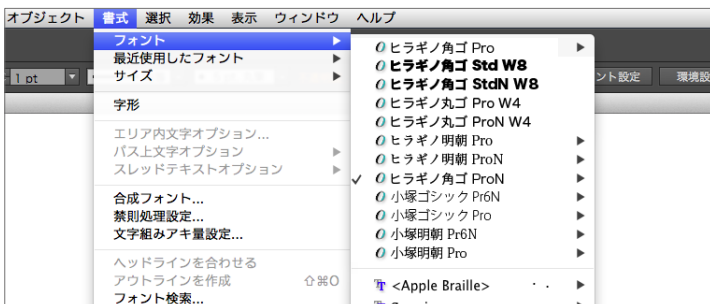


表示されたヒラギノフォントを選択し、[Fonts]メニューの[New Set from Selection]をクリックします。[SETS]内に新しいセットが作成されるので、セット名を設定します(例「ヒラギノ」)。セットとして登録することで、セット単位でアクティベート/ディアクティベートできるようになります。「ヒラギノ」セットをアクティベートします。

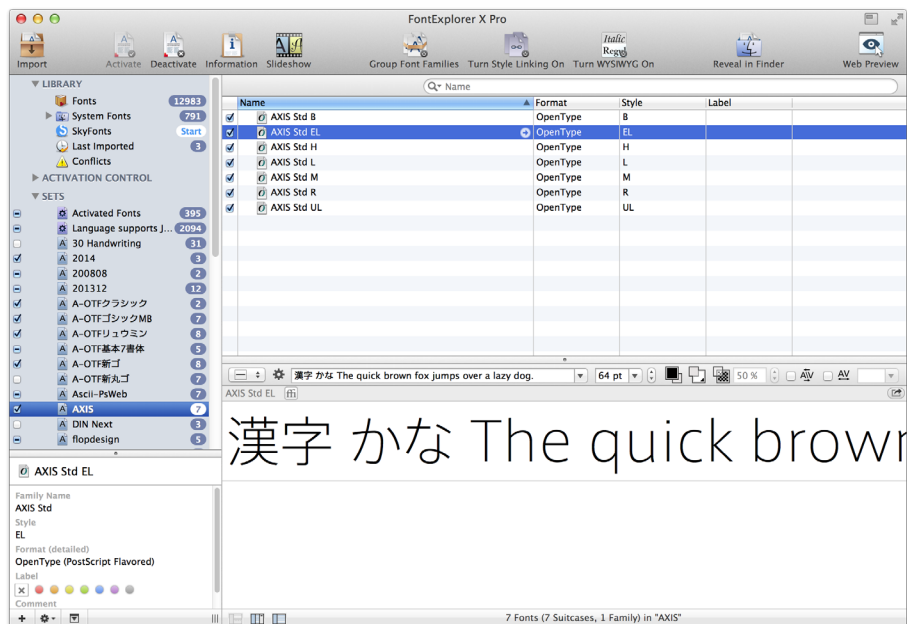


同様に、小塚フォントを検索してセットとして登録し、アクティベートします。

Illustratorを起動し、フォントメニューを開くと次のように表示されます。「システム/ライブラリ/Fonts」に加え、ヒラギノ、小塚フォントがアクティブになっています。



必要に応じて、[All Users]（「ライブラリ/Fonts」フォルダー内のフォント）のフォントをセットとして登録します。



手元のフォントをFontExplorer X Proに登録する

購入したフォントなどは「ユーザ/共有/Fonts」フォルダーなどにおき、FontExplorer X Proの[SETS]にドラッグ&ドロップで登録します。アクティベートしやすいように「ファミリーごと」、「メーカーごと」のように、あらかじめフォルダー分けしておくともよいでしょう。

なお、同じフォントを異なるセットに登録することが可能なので、プロジェクトごとにセットを作っておくこともオススメです。